

「新春歩け歩け大会開催」

吉川隆志（拜三小地区・1期目）

元日の朝、スタート地点の昭和公園自由広場はどんよりした雲に覆われ、冷たい風に吹かれていました。しかし、「明けましておめでとう」の声とともに、小学生から高齢の方まで、総勢150人ほどの参加者が集まりました。

北川穰一市長、神野次郎都議会議員をはじめとする来賓挨拶に続いて、スポーツ推進委員のリードにより昭島体操を行った後、約5キロメートル先のゴールを目指して一斉に出発しました。

この時期には珍しく、スタートとともに舞い始めた雪は、休憩所のあいぽくに到着する頃にはかなり強く降っていました。みなさんは、その後も元気に走り、ゴールの拜島第一小学校を目指して歩いて行きました。ゴールに到着する頃には雪も上がり、真っ白な息をはきながら次々とゴールインされる参加者の顔には、やり遂げたという満足感あふれる表情が見受

けられました。

今年で第45回を迎えた新春体力づくり歩け歩け大会は、昭島市民の健康増進を目的に昭島市体育協会の主催により行われています。参加者は「健康づくり歩け歩け運動」と同様、手帳に貼るシールと参加賞がもらえるほか、ゴール地点でのお菓子和ジュースのサービスもお楽しみいただけます。

新年の計画を実行に移すよい機会です。少し早い話ですが、今年のカレンダーの大晦日に、「新春歩け歩け」の文字を記さずにはいかがでしょうか。奮るってご参加ください。



「昭島市新春駅伝競走大会」

中島岩雄（東小地区・3期目）

例年、お正月が明けると、寒中で寒いときですが「駅伝競走大会」が開催されます。この行事は、昭島市制開始の60年前から行われている伝統あるスポーツ大会です。

駅伝というスポーツ競技は日本が発祥の地で、大正時代に東海道の宿場町を中継所として、東京から京都まで、500キロメートル余りを2日かけて走り切ったのが始まりだそうです。

そんな理由なのか、国内各地で駅伝大会が数多く行われており、「昭島市新春駅伝競走大会」もその一つです。

いろいろなスポーツに関心が高まっている昨今、今年の駅伝競走大会参加数は昨年に比べ17チームの増加があり、友好都市である岩手県岩泉町からも4チームの参加がありました。ランナーの服装も昔は短パンかジャージが定番でしたが、最近はカラフルなランニングウェアとなり、見ているのも楽しいものです。



また、スタート地点や中継所での応援もつい熱が入り、沿道からはみ出してしまふ応援者がいて、スタッフによる整理もかなり大変で、つい大声が出てしまいます。このサポータースタッフは、昭島市体育協会を中心とした各種団体のボランティアの方々です。寒い中、本当にお疲れ様でした。

来年は皆さんも、応援者として参加してみたいかがでしょうか。